

REACT

2014年 6月号



中央アフリカ共和国で いま、起きていること

南スーダン 命を守る場所はどこに?

「結核マニフェスト」日本でも支援広がる
国境なき医師団日本 定例総会・財務報告
派遣スタッフの声(南スーダン)



エボラ出血熱が発生、MSFが緊急対応
3月に西アフリカのギニアでエボラ出血熱の発生が確認されました。エボラは感染力が強く、致死率は最大90%に。拡大防止には患者の発見と、専門施設での隔離治療が必要です。15年前から他国での対応経験がある国境なき医師団(MSF)は今回、発生直後から緊急援助活動を開始してギニア保健省をサポート。専門施設3ヵ所を立ち上げて治療にあたり、地域社会への情報提供も行いました。



特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

寄付や『REACT』に関するお問い合わせ

0120-999-199 (9:00~19:00 無休)

〒162-0045 東京都新宿区馬場下町1-1 早稲田SIAビル3階
Tel : 03-5286-6123(代表)

www.msf.or.jp

『REACT(リアクト)』は国境なき医師団(MSF)日本が発行するニュースレターです。MSFが活動現場で目撃する世界の人道的危機と、命を救うための人道援助活動についてお伝えし、ともに考えていただくための情報をお届けします。

国境なき医師団は、1971年にフランスで設立された、非営利で国際的な民間の医療・人道救援団体です。危機に瀕した人々との緊急医療援助を主な目的とし、医師・看護師をはじめとする約6000人の海外派遣スタッフと、約3万人の現地スタッフが、72の国と地域で活動しています(2012年度)。

アンケートのお願い

国境なき医師団の活動地の状況と活動内容をより分かりやすくお伝えするために、ぜひアンケートにご協力ください。郵送またはウェブサイトから、ご回答いただけます。アンケートにご協力いただいた方の中から抽選で5名様に各種MSFグッズ(右写真は一例です)を差し上げます。

郵送 郵便はがきに、ご住所、お名前、年齢、職業、アンケートの回答をご記入のうえ、左記の住所までお送りください。2014年8月末日消印有効

宛先 国境なき医師団日本・広報部宛

Web トップページ → MSF図書館 →『REACT』 2014年8月末日まで受付

*お寄せいただいた個人情報はアンケート分析にのみ利用いたします。

◎次の①～④には[ア そう思う イ そう思わない ウ どちらともいえない]から選択して、⑤⑥には自由回答でお答えください。

①世界の人道危機や医療ニーズへの理解は深まりましたか。 ②MSFの活動への理解は深まりましたか。 ③MSFや派遣スタッフを身近に感じることができましたか。

④今後もMSFを支援していこうと思いますか。 ⑤特に印象に残った記事を2つ教えてください。 ⑥ご意見・ご感想を自由にお聞かせください。





＜写真＞
表紙 中央アフリカ共和国、暴力を逃れた人々が集まるハイチ空港に設置されたMSFの診療所。病気の子どもたちの診察を待つ。母親自身も疲弊している。
P.2-3: 戦闘が激化した南スダーンの首都ジュバから、家財道具を背負い徒步で避難する人々。

2014.6 CONTENTS

ACTIVITY NEWS

中央アフリカ共和国

4 中央アフリカ共和国で
いま、起きていること

シリア

6 シリア緊急援助
国内外で続く

必須医薬品キャンペーン

7 「結核マニフェスト」日本でも支援広がる

フィリピン IN FOCUS

8 託された手紙

南スダーン

10 命を守る場所はどこに？

緊急事態、続く――

せいかん
凄惨な暴力の応酬が激化してしまった中央アフリカ共和国、南スダーン、
そしていま戦闘がやまないシリア。

命を奪い合う戦いのただ中で、生き残ろうとする、命を守ろうとする闘いも続いています。
国境なき医師団（MSF）は、こうした紛争地で、また自然災害の被災地で、
緊急事態に置かれた多くの命を救うため
これまで培ってきた力を最大限に發揮し、活動を展開しています。

11 VOICE 派遣スタッフの声
白川 優子（看護師/南スダーン）

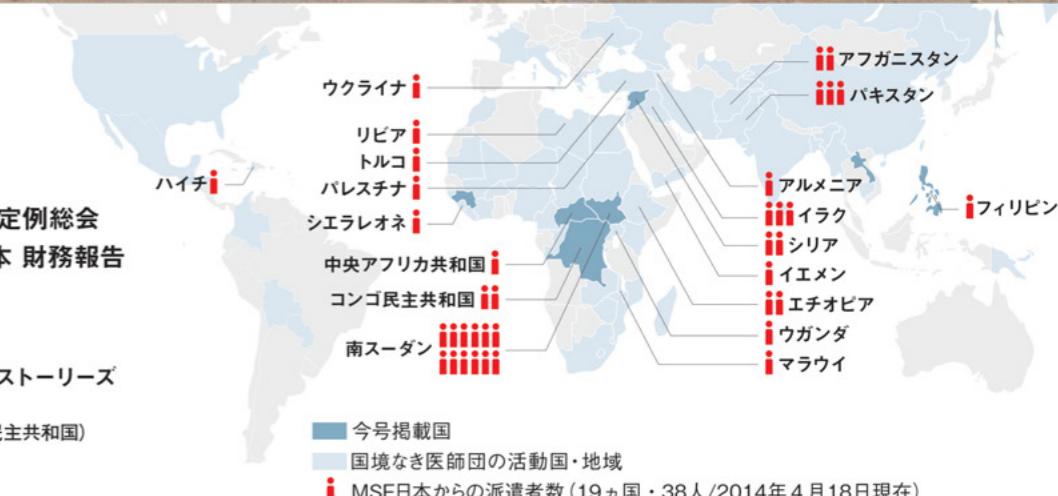
12 2014年 国境なき医師団日本 定例総会

13 2013年度 国境なき医師団日本 財務報告

14 支援者 の声

Field Stories フィールド・ストーリーズ

高橋 央（助産師/ラオス）
落合 厚彦（ロジスティシャン/コンゴ民主共和国）



「未曾有の人道危機」
現地の様子をこう語るのは首都バ
ンギの国際空港そばにある避難キヤ
ンプで国境なき医師団（MSF）の
プログラム責任者を務めたリンディ
ス・フルムです。

1960年の独立以降、中央アフ
リカ共和国は、政治的混迷や国際社
会の無関心により数十年にわたり慢
性的な危機にありました。その危機

「搬送されてくる患者は、体のど
こかがそぎ落とされていました。た
だ殺し合うだけでは飽き足らないの
か、考えられる限りの残酷な傷つけ
方をせずにはいられないのか、と感
じるほどの光景でした」

現地の様子をこう語るのは首都バ
ンギの国際空港そばにある避難キヤ
ンプで国境なき医師団（MSF）の
プログラム責任者を務めたリンディ
ス・フルムです。

1960年の独立以降、中央アフ
リカ共和国は、政治的混迷や国際社
会の無関心により数十年にわたり慢
性的な危機にありました。その危機

は、2012年12月、反政府勢力「セ
レカ」が蜂起して以降、劇的に悪化
しています。首都を制圧した「セレ
カ」と、2大勢力である「アンチ・
バラカ」との武力衝突が昨年12月に
激化し、混乱がさらに拡大。紛争は、
いまや複数の小規模集団による争い
と化し、各地で暴力・略奪が繰り返
される事態に陥っています。

残虐な暴力行為は、子どもにも向
けられていると報告されています。
隣国チャドの難民キャンプで心理ケ
アに携わるMSFの精神科医フレデ
リック・ドログルは、ある4人兄弟
について次のように証言しています。
「彼らは、頭をナタで殴打され、
指を引きちぎられていました。お兄

ちゃんたちは他の子と遊ぶようにな
りましたが、幼い2人の弟は、うつ
ろなまなざしで、あまりしゃべろう
としません。恐怖に満ちた体験を抑
え付けている感じです」

無邪気だったであろう子どもたち
の、感情までも殺してしまう。それ
がこの国の現実です。

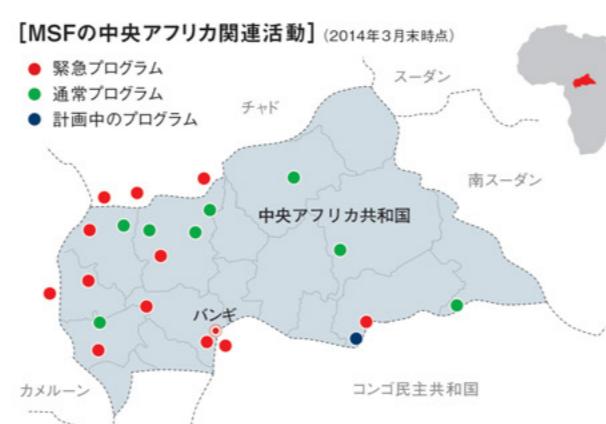
援助の大大幅な拡大を求める

暴力から逃れ、身を潜めて暮らす
人びとにに対する援助は圧倒的に不足
しています。MSFは1996年か
ら同国で医療援助活動に取り組んで
きました。4月時点では300人以上
の外国人スタッフと2000人の現
地スタッフが、通常プログラムに加
えて緊急援助を拡大（右の地図を参
照）。周辺国でも同国の難民を援助
しています。しかし、一刻を争う緊
急事態にありながら、国内では極度
の治安悪化のため、MSFが唯一の
援助団体という地域も少なくありません。
MSFも襲撃や略奪などの被害を受け
ており、活動縮小を余儀なくさ
れる地域が出てきています。

MSFは2月18日に声明を発表
し、国連とアフリカ諸国は、暴力抑
止と人道援助拡大に速やかな行動を
取るべきだと指摘。国連安全保障理
事会の理事国や援助国、即時
の暴力抑止と安全性確保を実現
し、最低限の生活ニーズを満たす、
大規模な援助の展開を求めています。

Web

中央アフリカ共和国に関する活動の最新情報はこちらからご覧いただけます。▶ www.msf.or.jp/news/car.html



COUNTRY DATA

平均余命は世界で4番目に低い50歳。国民の8割が1日2ドル以下で暮らす世界最貧国1つである同国で、MSFは18年間にわたって活動を行ってきた。知られざる危機を分析するため、2011年から1年半をかけて活動地で調査を実施。各地で死亡率が「緊急事態」の基準値を超えることを明らかにし、同国政府と国際社会に対策の拡大と改善を訴えた。

繰り返される、暴力と略奪、凄惨な殺りく——。宗教的、政治的な背景が複雑に絡み合った紛争は激しさを増すばかりで、収束の気配すら見えません。暴力や略奪のため家を追われ、難民・国内避難民となった人はおよそ100万人。人びとは命の危機にさらされ、ただ生き延びることだけを考えています。

中央アフリカ共和国で いま、起きていること

© Mathieu Poncet/MSF

【MSFが声明を発表】北西部ボギラで4月26日、MSFの病院が武装グループの襲撃を受け、現地スタッフ3人を含む16人の民間人が殺害されました。MSFはこの非道な行為を強く非難するとともに、すべての紛争当事者に、医療援助スタッフ、施設、活動の中立性を尊重するよう声明を発表しました。

「結核マニフェスト」 日本でも支援広がる

長くつらい薬剤耐性結核（DR-TB）の治療を変えたい！
国境なき医師団（MSF）が治療を提供する世界各地から、患者や医療スタッフが自ら声を上げた「結核マニフェスト」。
支援の輪が日本でも広がりました。



3月20日、厚生労働省で記者会見を開き、DR-TBの対策向上を求めて、「結核マニフェスト」キャンペーンを開始することを発表。



MSFの 「結核マニフェスト」とは

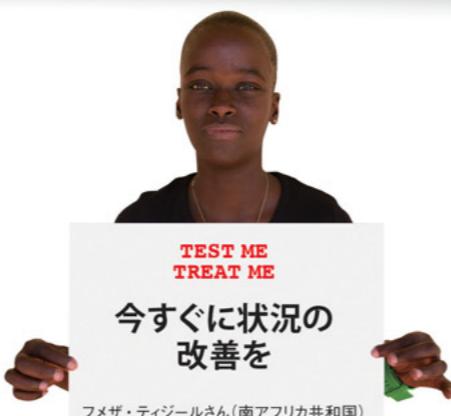
- 1 私たちは、薬剤耐性結核の診断・治療の普及を求めます。世界中の患者と医療スタッフが、以下の3つの対策を求めています。
- 2 私たちは、治療法の向上を求める。研究機関や製薬企業が、効果が高く、治療期間が短く、安価な治療法を、早期に実用化するよう望みます。
- 3 私たちは、治療の普及を促す資金援助の拡大と、研究・開発に対する支援を求めます。

2年間、1万錠以上の服薬

通常の結核治療薬が効かない、DR-TB。新しい検査機器が誕生するも導入や普及は十分でなく、適切な治療を受ける患者は世界で5人に1人とみられます。治療を受けられても、既存の薬には、吐き気、身體の痛み、発疹などの強い副作用があり、重度の精神疾患に陥ることも。治療期間は長い人で2年、服用する薬は1万4800錠に及びます。

この状況を変えるため、MSFが作成したのが「結核マニフェスト」。DR-TB治療の改善を求める、患者と医療スタッフが共同執筆したこのマニフェストには、強い思いが込められています。

「既存の治療法で完治に至る人は半数に過ぎません。治療の甲斐なく命を落とし、ここに署名することもできなかつた多くの人がいる、



超薬剤耐性結核の治療を 乗り越えたフメザさんの声

結核マニフェストの共同執筆者

DR-TBと診断されても、風邪みたいに治療を受けて、5日で元気になれば、素敵ですよね？ 現在の治療法では2年以上かかり、つらい副作用があります。私は副作用で耳が聞こえなくなってしまいました。私も含めた世界中の患者仲間たち、医師たちが書き上げた「結核マニフェスト」には、求める対策が、はっきり示されています。多くの人が署名することで、DR-TBにかかった人々との苦しみを減らすことができるのです。

ということです。本マニフェストで掲げる私たちの要求は、彼らをしのびながら、まとめられたものです」

MSFはこのマニフェストに賛同の署名を集め、キャンペーンを開催。日本でも3月24日の世界結核デーを通じて支援の輪が広がりました。アルメニアで半年間、MSFの結核治療活動に携わった舛本祥一医師

DR-TBは特に重点的に取り組むべき。新薬の開発や治療法の改善は、結核は全世界的な問題であり、従事者に興味を持ってほしい」と、キャンペーンに協力しました。

4月までに世界で3万2508人、日本では1141人が署名。国

内に代表的機関、結核予防会、核研究所の賛同も得ました。署名は5月

末の世界保健機関（WHO）総会で



激しい内戦の下、町や村、生存の基盤すべてが破壊され、安全を求めて避難場所を転々とする……。シリア国内外で苦境にある人びとに、

シリア緊急援助 国内外で続く



スタッフが拉致される

銃創、爆傷、破片創——。MSF

が活動する医療機関で治療を待つ患者の、長い長いリストに記された症例です。シリアでは、紛争による負傷だけでなく、産科ケアなどの母子保健や、予防接種、燃料事故などに伴うやけどの治療も必要とされ、慢性疾患も投薬を続けられなければ命に関わります。こうして患者の待機リストは、対応が追い付かないほど次々と書き足されていきます。何百万人というシリア人が、地下室や個人の住宅を改造した急ごしらえの医療施設に詰め掛けざるを得ない状況なのです。

MSFは2012年6月にシリアで緊急医療活動を始め、14万件余りの診療を提供してきました。しかし、紛争が高い壁となり、活動は困難を極めています。2014年1月2日の晩、MSFのスタッフ5人が宿舎から連れ去られる事件が発生しました。MSFはスタッフの無事帰還を

一方で、シリア国外に逃れた人びとの苦境も続いています。国連によれば、周辺国では計200万人以上が難民登録を済ませたか、登録を

見直しながらの活動となっています。

いずれも激しい戦時下の活動であることから、常に安全を考慮し、状況に応じて各プログラムを繰り返し運営しています。シリア人の医療

物資と技術の両面で、反体制派支配地域、政府統治地域、係争地を含む所と診療所2カ所は閉鎖を余儀なくされました。シリア人の医療に応え続けるため、他の5カ所の仮設病院と複数の診療所での医療活動を継続しています。シリア人の医療

が受け入れ国の対応能力は限界に達しつつあります。各国の保健医療サービスに不足が生じる中、難民のニーズも減る見込みはありません。MSFは、イラク、ヨルダン、レバノンなどのシリア難民受け入れ国で不足する医療に対応し、外科、救急、母子保健、一般外来、心理ケアなどの医療活動を開催しています。

200万人以上が難民に

この事件が起きた地域の病院1カ所と診療所2カ所は閉鎖を余儀なくされました。シリア人の医療ニーズに応え続けるため、他の5カ所の仮設病院と複数の診療所での医療活動を継続しています。シリア人の医療

親愛なる 支援者の皆さん

フィリピンまで私たちを助けに来てくださいって
本当にありがとうございます。
今回、私たちは実感しました。
最悪の危機にあっても、
決して独りではないということを。
心を寄せててくれる友人が手を差し伸べ、
前に進む手助けをしてくれるのだということを。
皆さんのご尽力に心より感謝いたします。
ありがとうございました。

台風30号の被災者より
愛と感謝をこめて



託された手紙

1600万人が被災した台風被害から3ヶ月。被災地で活動する私たちに届いた手紙です。災害直後から現地入りしたMSFは、9万5000件を超える外来診療をはじめとする緊急援助を行い、数万人に飲料水を提供し、数千の救援物資を配布してきました。フィリピン台風被災地援助のために、日本の皆さまから寄せられた総額2億5060万円とそこに込められた思いは、被災した人びとに援助活動を通して確実に届いています。ありがとうございました。いまだ被災地では復旧のめどすら立たない地域も多く、医療、心理ケアの高いニーズがあります。MSFは必要とされている場所にとどまり、活動を続けます。



7月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

8月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

9月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

10月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

11月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

12月 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

命を守る場所はどこに?・

昨年末以降、南スードン全土に広がった戦闘で、国連の統計によれば、4月時点では81万人が国内、27万人が国外に避難したと見られています。市民や医療機関も襲撃を受け、ひつ迫するニーズに援助が追い付かない状況です。



南スードンの首都ジュバの避難民キャンプで、娘を抱いて立つ女性。

生後5時間の息子と逃げる

「その朝、私はこの子を産んで、すぐに家を出ることを決めました。

近所の人はもう避難しはじめていましたから」。ジュバ市内の自宅から、生後わずか5時間の赤ちゃんを含む8人の子を連れて逃げてきたメアリー・マイケルさんは、国境なき医師団(MSF)のスタッフにそう語りました。その前夜に自宅近くまで銃撃戦が迫り、産まれたばかりの赤ちゃんを危険にさらして生活できないと思ったと言います。夫とは連絡がつかないままでした。

しかし、子どもを守るために来たはずのトンビン避難民キャンプは数万人であふれ、劣悪な衛生状態にかかります。マイケルさんの5歳の息子は栄養失調と感染症で体調を崩し、MSFの治療を受けることになりました。

さらに3月には雨期が始まり、キャンプ全体が水浸しに。もともと足りていなかつたトイレは半数以上



COUNTRY DATA

2011年7月の独立後も、40年近くに及んだ南北スードン内戦の影響による深刻な医療不足、各地の武力衝突など問題が山積。2013年12月から政府と反大統領派勢力が戦闘になり、暴力の応酬と混乱が続いている。MSFは1983年から全土で活動し、現在は緊急対応活動も展開。3000人以上のスタッフが2013年12月以降、20万件以上の診療を提供している。

病床の患者が殺害される

南スードン全土に戦闘と暴力がまん延し、治安情勢の著しい悪化が、援助を妨げています。MSFも一部の活動地で活動の停止を余儀なくされました。1月には、国の北部、ユニティ州のベンティウとレール、上ナイル州のマラカルで、MSFが活動していた施設が相次いで武装勢力の襲撃・略奪を受け、マラカルの病院では入院患者を含め少なくとも14人が死亡していました。

レールからは、住民と共にやぶ地に逃れた二百人余りの現地スタッフが、避難生活で体調を崩す人びとに医療や物資を届けるために奔走しているという報告がありました。

MSFは、医療を必要とする人びと、その援助にあたるスタッフの保護をすべての勢力に強く求め、可能な限り活動展開に努めます。



看護師
白川 優子
Yuko Shirakawa

1973年、埼玉県出身。看護学校卒業後、外科・手術室・産婦人科を中心に日本で約7年勤務。2003年にオーストラリアに渡り、オーストラリアン・カソリック大学看護学修士課程修了後、同国で看護師として約4年勤務。2010年MSFに参加し、スリランカ、パキスタン、イエメン、シリアへ派遣。



襲撃を受けたマラカル市内の病院。

生存者の救出、緊迫の数日間—多くの人の苦しみの中、小さな赤ちゃんが笑顔をくれた

到着直後に戦闘が激化

私がマラカルに入ったのは2月10日のことです。昨年12月からマラカルの街を巡って繰り返された戦闘は落ち着きを見せていましたが、到着直後に一転、戦闘が激化して、私たち国境なき医師団(MSF)のチームも活動の一時中止を余儀なくされました。市民2万人が避難してきた、市内から7キロ離れた国連基地の中でも激しい爆音が何時間も聞こえ、時には銃弾や破片が飛んできます。

生存者を探して

ジープで市内に向かった私たちが見た光景は想像を絶するものでした。街は二度と人が住めないほど破壊され、焼きつくされていました。

多くの遺体がありましたが、生存者が残されており、他にも身動きが取れず助けを求めている住民がいると考えたからです。

MSFは国連基地内にテントの病院を設置して、負傷者治療のほか、病院から救出した患者の、結核やカラザールを含む全科の治療に当たっています。また避難民キャンプでは子どもの栄養調査を実施。栄養治療プログラムや雨期のコレラ対策、へき地で援助を待つ人びとのためボートでのアウトリーチ活動の準備も開始しました。

酷暑の劣悪な衛生環境での暮らしが続き、子どもと高齢者の下痢・脱水による体力消耗が目立っています。長い間街に取り残されて衰弱しました。翌日は2台のバスを使ってすべての生存患者の救出に成功しました。50度以上の気温の中、いつ兵士に出くわすか分からぬ……時間と体力と精神力との勝負が数日間続きました。教会にも隠れている人が

小さく痩せた赤ちゃんは

ジープで市内に向かつた私たちが

見た光景は想像を絶するものでした。街は二度と人が住めないほど破壊され、焼きつくされていました。

病院に着くと、ここも破壊され、多くの遺体がありました。生存者をジープに乗せられる人数だけ救出しました。翌日は2台のバスを使ってすべての生存患者の救出に成功しました。50度以上の気温の中、いつ兵士に出くわすか分からぬ……時間と体力と精神力との勝負が数日間続きました。教会にも隠れている人が

ジープで市内に向かつた私たちが

見た光景は想像を絶するものでした。街は二度と人が住めないほど破壊され、焼きつくされていました。

病院に着くと、ここも破壊され、多くの遺体がありました。生存者を

ジープに乗せられる人数だけ救出しました。翌日は2台のバスを使ってすべての生存患者の救出に成功しました。50度以上の気温の中、いつ兵士に出くわすか分からぬ……時間と体力と精神力との勝負が数日間続きました。教会にも隠れている人が

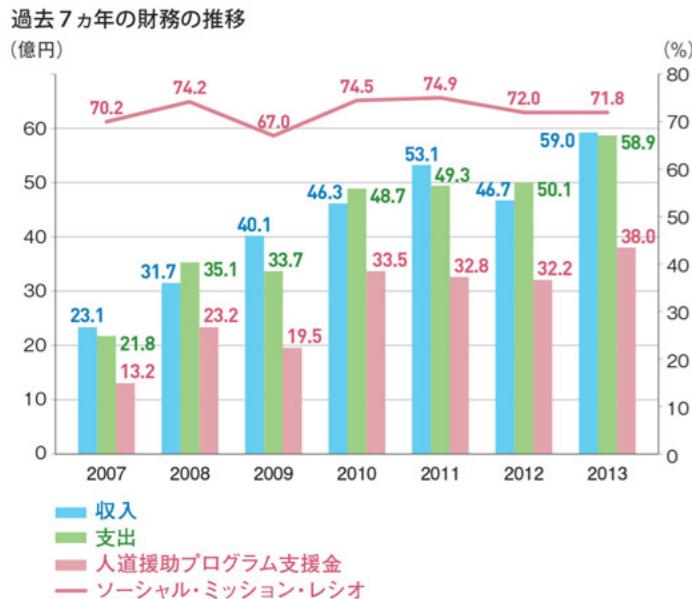
ジープで市内に向かつた私たちが

見た光景は想像を絶するものでした。街は二度と人が住めないほど破壊され、焼きつくされていました。

病院に着くと、ここも破壊され、多くの遺体がありました。生存者を

</div

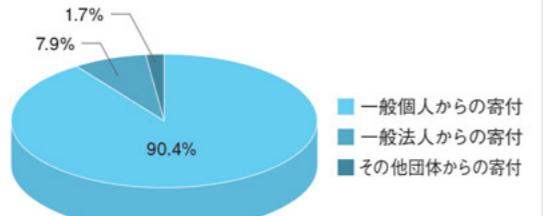
2013年度 国境なき医師団日本 財務報告



寄付収入は総額58.9億円（前期比26%増）でした。

皆さまからの絶大なるご支援、ご厚意により、2013年度のMSF日本の寄付収入は、総額58.9億円と過去最大となりました。2013年度は、フィリピンでの台風被害に対し緊急支援のための募金活動を行ったこともあり、実際に受領した寄付収入の総額は60.5億円に上りました。ただし、フィリピン向けの指定寄付の一部、1.6億円を、翌期の活動用として繰り延べたため、期間寄付収入は58.9億円となりました。

日本の寄付収入の支援者別内訳

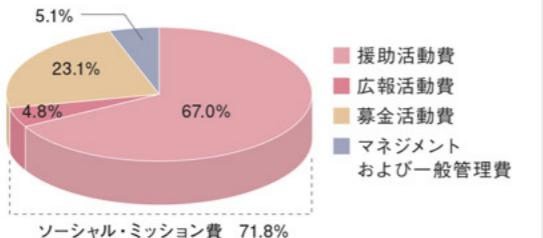


一般個人支援者数	257,035人
一般法人支援社数	8,520社
その他支援団体数	2,349団体
延べ支援者総数	267,904
支援者総数は、前年比で23%増加しました。寄付金以外にも、現物および役務・サービスのご提供という形でのご支援を数多くいただきました。	

援助活動に係る支出は総額58.9億円（前期比17%増）でした。

MSF日本の、2013年度の活動別の支出は、右に示した通りです。好調な寄付収入の伸びに支えられ、プログラム支援金の大幅増が可能となり、年間計38.0億円を送金しました。広報活動と合わせた、ソーシャル・ミッションは計42.3億円で、レシオ（全支出に占める割合）は71.8%でした。フィリピン向けの緊急援助キャンペー等により、募金活動費も増加しましたが、調達効率は改善つつあります。

援助活動に係る経常費用 58.9億円の内訳



	(百万円)
① 援助活動費	3,943
・人道援助プログラム支援金	3,799
・国内外でのプログラム・サポート等	144
② 広報活動費	282
③ ソーシャル・ミッション費計(①+②)	4,225
④ 募金活動費	1,362
⑤ マネジメントおよび一般管理費	301
援助活動に係る 経常費用合計(③+④+⑤)	5,888

MSF日本の財務上の基本方針

MSF日本はMSFが世界各地で展開する医療・人道援助活動に対して人材面・資金面で積極的に関与すること、および援助活動地の人びとが置かれた窮状を目撃者として広く社会に情報発信することを最大の使命とし、これらの活動に重点的に経営資源を配分しております。人道援助活動と広報証言活動という、二つの使命の遂行に要する費用を、ソーシャル・ミッション費と称し、同費用の総費用に対する比率を、ソーシャルミッション・レシオとして経営の効率性の尺度としています。

MSFの活動は寄付金に依存しており、人道援助活動のニーズにフレキシブルに対応するためには、必要・十分な寄付収入をいかに確保するかが課題となります。世界には命の危機に瀕しながらも援助が得られない人びとが大勢い

ることを広く周知し、MSFの援助活動へのご理解・ご支援をできる限り多くの方々に訴えることも人道援助活動の一環であると、MSF日本は考えます。また今後予想される資金ニーズの拡大に対応するため、新たなMSF支援者を獲得するための働きかけも積極的に推進しています。

一方、長期的な観点からMSF日本は、突発的大規模災害発生時の緊急援助活動にも迅速かつ円滑に対応できるよう、一定水準の剩余金を蓄積することで財務基盤の安定化を図っています。

「一円でも多くの寄付金を現地へ送ってほしい」という寄付者の方々の切実な声をしっかり胸に刻み、MSF日本では鋭意、コスト削減をベースとした、さらなる効率経営の実現に取り組んでいます。

Web MSF日本の活動概要と財務報告を掲載した『活動報告書 2013年度版』をダウンロードできます。▶ www.msf.or.jp/library

◇郵送ご希望の方は、Webトップページ下段の【資料請求】からお電話でも承ります。Tel 0120-999-199 (9:00~19:00 年中無休)

2014年 国境なき医師団日本 定例総会

3月23日、24日にかけ、東京・恵比寿において、国境なき医師団（MSF）日本2013年度の活動と財務に関する報告・承認と役員改選を行い、会長には黒崎伸子医師が再任されました。今年度の役員の顔触れは下段の通りです。

活動における文化多様性に関するワーキンググループでは、さまざまな文化背景を持つスタッフと共に働く活動地での行動や生活のあり方について、出席者それぞれの活動経験を基に、会場全体で活発な意見が交わされました。



証言活動について活発な議論が展開されたパネル・ディスカッション。



理 事

会長	黒崎 伸子 Nobuko Kuroasaki MD
副会長	青池 望 Nozomi Aoike MD
副会長	加藤 寛幸 Hiroyuki Kato MD
専務理事	安藤 恒平 Kohel Ando MD
会計役	フレデリック・ヴァラ Frederic Vallat
	渥美 智晶 Tomoaki Atsumi MD
	須田 洋平 Yohji Suda
	キム・ナムニヨール Nam Ryeol Kim MD
	大谷 敬子 Keiko Otani

監 事

上柳 敏郎 Toshiro Ueyanagi
ジル・デルマス Gilles Delmas

3月23日、24日にかけ、東京・恵比寿において、国境なき医師団（MSF）日本2014年総会が開催されました。MSF日本は、MSFの活動に関する最高意思決定の場であるとともに、MSFの活動経験者を中心とする会員が集う、年に一度の貴重な交流の場です。

今回の総会では、会員の今後5カ年の活動目標を示す「ビジョン」の草案について議論し、採決。また、MSF日本の2013年度の活動と財務に関する報告・承認と役員改選を行い、会長には黒崎伸子医師が再任されました。今年度の役員の顔触れは下段の通りです。



黒崎 伸子
Nobuko Kuroasaki

外科医。長崎大学医学部卒業。長崎大学医学部付属病院、国立小児病院などで小児外科医として勤務。国立長崎医療センター小児外科医長・外科医長を経て、現在は黒崎医院院長として診療。2009年より長崎大学大学院非常勤講師も務める。MSFに2001年から参加し、スリランカ、ソマリア、シリアなど計11回派遣。2010年3月からMSF日本会長。

会長あいさつ

私たち国境なき医師団（MSF）の活動に対して、いつも、ご支援くださっている皆さんに、心より感謝申し上げます。

MSFは1971年から世界各地の人道的危機に対し、医療援助活動を続けています。MSF日本も1991年の設立以来、現場で活動する人材の派遣や、活動のための資金提供、活動地で目にする医療ニーズの証言などを通して援助活動への貢献を高めています。

シリアや南スチダーンなど紛争・暴力の犠牲者の状況は、改善の気配はありません。昨年末から暴力が頻発している中央アフリカ共和国の状況は治まる気配がなく、20年前のルワンダ虐殺に匹敵する人道的危機になるのではないかとさえ言われています。また、このような地域では現地スタッフの安全確保も大きな課題です。それでも、「助けられる命を見捨てない」という信念と、支援者の皆さんから託された思いを現地でかなえるために、その使命を果たしています。

MSFは、常に、設立時の基本的姿勢を問いかながら、覚悟をもって、さまざまな緊急事態に対峙しています。それは、助けを必要としている、より多くの人びとに中立・公平に援助を届け、さまざまな権力から独立の立場を貫くことです。また、危機的状況にある人びとの現状を社会に訴える「証言活動」についても、改めてその重要性を確信しています。

これからも、変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

Nobuko Kuroasaki
黒崎 伸子



フィールド・ストーリーズ

人道援助の現場で出会った人びとの交流、明日への活力源となった出来事など。
国境なき医師団(MSF)のフィールドでの活動中に、スタッフが出会ったストーリー。



共に働いた病院
のスタッフと記
念写真。(写真
左端が筆者)

赤ちゃんの体重を
地元のスタッフと一緒にチェック。



医療援助が平和構築を後押しすることも

落合厚彦 | ロジスティシャン
Atsuhiko Ochiai
コンゴ民主共和国

私が9カ月間活動した南キブ州は情勢不安が続く地域です。私が担当するMSFのチームは州西部で基幹病院と5つの診療所を支援していましたが、うち3つの診療所は、住民が政府軍を拒絶し自ら組織した民兵グループの支配する地区にあり、こうした自衛組織同士の対立からしばしば治安問題が起り、MSFも度々活動の中止を余儀なくされていました。

治安情報を収集して安全を確かめながらMSFの車が診療所へ向かうと、道中の小さな村々から大人も子どもも飛び出してきて手を振ってくれます。MSFに対する住民の歓迎はどこでも大きなものでした。この地域で継続的に活動する援助団体は国連も他のNGOもMSF以外ではなく、私たちが活動を中断すると、診療、医薬品の無料供与、患者の搬送といった医療の機会や質の向上面だけでなく、建設などの雇用機会も失われるため、地域住民にとっては非常に大きなマイナスです。

政府軍を受け入れた地区的診療所では薬も十分にあり、施設の補修も行われるのに、民兵グループのいる地区的診療所では、そうしたことが遅々として進まない……。この差異が、地元の人たちの意識にも影響を与えたようで、以前は和平交渉に消極的だった地域でも、自衛組織の武装解除の機運が醸成され、私の着任中、50人以上の民兵が手にしていた武器を放棄し、平和構築に向けて大きく前進したのです。

もちろんこの武装解除は、他の組織や多くの方々の努力があったからこそ達成されたものですが、MSFの活動がその過程をほんの少しでも後押しすることができたのは非常にうれしいことでした。



治安に加え、未舗装の道路も活動の大きな障壁だ。(写真右が筆者)



住民も参加して進む診療所施設の建設。



一緒に働いた時間が教えてくれた「援助する」ということ

高橋 央 | 助産師
Akira Takahashi
ラオス

任期を終えてフィールドを去るときはいつも、家に帰ることのできるうれしさとともに、現地の仲間に「さよなら」を言うつらさで苦しくなる。

ラオス北部、ベトナムと接するフアパン郡にMSFは母子保健プログラムを展開し、各県に1つの公立病院、計3カ所と、地域医療を担う診療所8カ所を巡回サポートしていました。医療従事者が絶対的に不足している上、広大な地域に点在する集落への道は険しく、橋のない川や山肌を削っただけの道路は、雨期には通行不可能となり、最低限の医療サービスも届かない地域が多い。

私の役割は病院や診療所を巡回し、現地の医療スタッフに妊婦検診や分娩室でのケアについてトレーニングを行うこと。妊婦検診を行う日を地域に広く伝えておくと、大勢の母親がやってくる。私は地元の職員に付き添い、問診の大切さや異常・正常の判断基準などを伝え、妊産婦ケアに必要な項目を一つひとつ一緒に行った。

5ヶ月間のプログラムの終了を控え、たった2人だった医療チームの私たちは、十分な援助を提供できたかどうか、悩んでいた。病院でのお別れパーティーの後、看護師長が「これから寂しくなる。今までいろんな援助団体が来たけど、毎日病院に来てくれたのはあなたたちだけだった」と言った。私たちは小さなチームで、少しのことしかできなかつたけれど、一緒に働いた時間が“本当の援助”を教えてくれた。



治安に加え、未舗装の道路も活動の大きな障壁だ。(写真右が筆者)

支援者の声

支援者の出水真由美さまの息子さんがMSF日本事務局にお手紙をくれました。

純粋な気持ちの伝わってくるその手紙と、事務局スタッフからの返信の一部を皆さんにご紹介いたします。

大阪府 出水真輝君(6歳) からのお手紙

こんにちは。ぼくは6さいの男の子です。

パパとママから「世界にはお水がなくて死んでしまったり、せんそうでお家がなくなったり、おべんきょうもできない子どもたちがたくさんいる」ってきました。

ぼくはビックリしてかなしくてこわかったです。

「せかいはどうすればなかよくなれますか?」

なつやすみに「どうすれば世界はなかよくなれるの?」っていうえほんをつくりたいです。

ぼくはいっぱいんきょうをして、大人になったらドクターになって、くるしんでいる人たちをおおしてあげたいです。

おへんじください。よろしくおねがいします。

パドマようちえん すぎぐみ 出水真輝



国境なき医師団日本から出水真輝君への返信

真輝くん、こんにちは。お手紙から真輝くんのお気持ちがしっかりと伝わってきて、とてもうれしく拝見しました。

真輝くんのご質問にはきっと色々な答えがあって、一人ではちょっと難しいこともあります。割とすぐに始められることもあると思います。このお返事では、私たちが日頃から皆さんにお願いしていることを一つお話させていただきます。

それは「医療がなくて困っている人たちのことを知ってください」ということです。そしてもしできたら、「知ったことを周りの人にも話してください」とお願いしています。

「知る」と「知らない」には、とても大きな違いがあります。「知ったら」そのことを考えることができます、「知らなかつたら」それはその人にとつては“ない”ことと同じなのです。

困った人たちのことを知ると、その人たちがどんな気持ちでいるだろう、どんなふうに苦しいのだろうと想像することができます。ほかの人の痛みを想像すると、少し優しい気持ちになって、助けてあげたいという思いが出てくると思います。

こんなふうに思う人が世界に少しずつでも増えていくと、世界の人たちはいまよりも優しく仲良しになれると言つたくなります。仲良しになって助け合うことができるようになると想っています。

真輝くんが大人になり、ドクターになったときに、国境なき医師団に関心を持ち続けてくださいつたら、ぜひ私たちと一緒に病気やけがで苦しんでいる人たちを助けてください。

お手紙、本当にありがとうございました。

国境なき医師団日本 編集長 谷口博子

教えるはずの、多くの命のために。
遺産・お香典からの寄付で、その遺志は希望に変わります。

遺産や相続財産の有意義な活用のために、MSFへの寄付を選ぶ方が増えています。パンフレットをご希望の方は、下記のウェブサイトまたは電話にてお申し込みください。MSF日本は認定NPO法人ですので、寄付していただいた遺産は非課税扱いとなります。

Web www.msf.or.jp
(トップページ下段 → 「資料請求」)

Tel 0120-999-199
(9:00~19:00 年中無休)